

霧島桜ヶ丘病院の森林保健活動について

施設紹介

(当院の紹介)

当院は鹿児島県霧島市牧園町にあります。病院敷地は霧島屋久国立公園内に位置し北部には霧島連山、南部には桜島を望む標高450mの丘陵地です。当院は高齢者・認知症治療を主とし、病气や加齢に伴い生活する目的や生きがい、社会での居場所を失くされた方々が入院されています。入院患者様の約8割が認知症と診断されており生活への意欲低下、徘徊、妄想等により安心してその人らしい生活が送れず療養生活に支障をきたしています。そのような方々に病院の各職種の専門性を活かした森林保健活動を通して安楽な療養生活を送っていただけるように取り組んでおります。

〈病院所有の森林〉



(森林の紹介)

現在森林保健活動に取り組んでいる森は病院敷地内にある16000㎡の場所で、ヒノキや杉を中心に約2200本からなる針葉樹の人工林です。元々放置林であったため伐採や枝打ちをスタッフだけの手で整備し、患者様に合わせた環境を整えました。はじめて森林に触れたスタッフも多く、その作業の楽しさに引き込まれていきました。

〈職員と患者様による手作りベンチ〉



〈休息・作業用広場〉



（目的・効果）

認知症の特徴として新しい記憶から失われ、古い記憶が残りやすい傾向にあります。幸い患者様の半数以上は農業・森林経験者で、森林環境を身近に利用しておられたことから森林保健活動を認知症治療のひとつである回想法として導入することが容易であり有効であると考えました。また、森林内での活動には病棟内での生活より運動量・行動範囲の拡大が要求されるため、筋力や心肺機能の向上といった身体的機能の向上も期待できます。更に、森林を利用するために、間伐や枝打ちを行い森林の整備をしました。これまでは放置林で日も当たらず、植物の育ち難い環境で、一本一本の木が細く、雨などで土が流れ出すなど災害を受けやすい森林でしたが、森林の整備を通じて手入れのされた元気な森へと生まれ変わるという事を知り、森林保健活動には環境保全の効果もあり、患者様と環境の療法に効果が期待できる活動といえます。

〈間伐の様子〉



活動紹介

（森林保健活動メニューの紹介）

当院の森林保健活動のメニューは 37 種類あります。森林内でおこなう全ての活動をメニューとして捉え、認知症の症状や身体機能へ働きかけるように作成しました。それらをアメリカ精神医学会の治療ガイドラインより5つの焦点からアプローチできるように分類することで活動目的の明確化を図り、さらに記録用紙により活動を記録することで、データを蓄積し1人1人の症状に対しより効果的なメニューの提供ができるようにしています。

〈メニューの例とアプローチ〉

- | | | |
|---|----------------------|-----------------|
| ① | しいたけ栽培・オリエンテーション散策 等 | → 行動へのアプローチ |
| ② | 談話会・食欲増進回想法・干柿づくり 等 | → 感情へのアプローチ |
| ③ | 杖づくり・ベンチ作り・木工 等 | → 認知へのアプローチ |
| ④ | 調理・入浴剤作り・昼寝・演奏 等 | → 感覚刺激へのアプローチ |
| ⑤ | 散策・枝打ち・丸太運び 等 | → ADL維持のためのリハビリ |

〈休息の様子〉



〈散策の様子〉

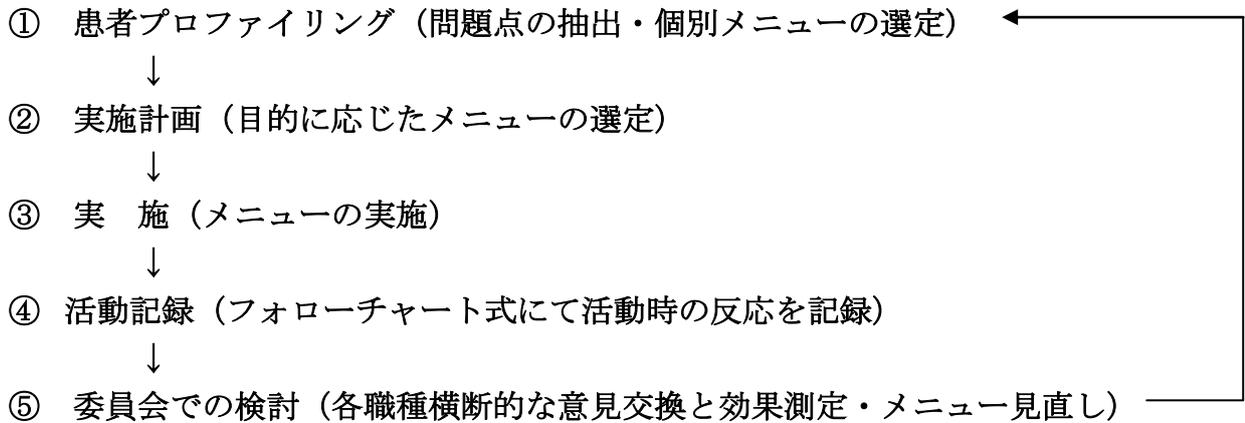


〈森林によるしいたけ栽培の様子〉



森林保健活動の実際

<森林保健活動の流れ>

- ① 患者プロファイリング（問題点の抽出・個別メニューの選定）
 - ↓
 - ② 実施計画（目的に応じたメニューの選定）
 - ↓
 - ③ 実施（メニューの実施）
 - ↓
 - ④ 活動記録（フォローチャート式にて活動時の反応を記録）
 - ↓
 - ⑤ 委員会での検討（各職種横断的な意見交換と効果測定・メニュー見直し）
- 

<委員会活動>

森林保健活動の継続的な提供のために、各職種・部門が横断的に参加できる委員会を組織しました。委員会では活動を行ううえでの問題点の抽出や実施した活動で得られた結果を記録して分析する事で、患者様 1 人 1 人に対しどの活動がどのような症状に効果がでたか多職種で意見交換します。さらにそれらの記録を蓄積することで、ある一定期間に行った森林保健活動の効果も見る事ができるしくみをつくろうと考えています。

これらの取り組みが病院全体に行き渡った時、患者さんにどのような変化が現れるのか大きな期待がふくらみます。

